

健康と保健医療に関する世論調査

●心身の健康と健康づくりの意識調査

東京都は、「健康と保健医療に関する世論調査」(※1)の結果を発表しました。これは、都内に住む満18歳以上の男女を対象に、こころと体の健康づくり、飲酒の習慣など、都民の心身の健康と健康づくりに関する意識について調査したもので、「東京都健康推進プラン21(第二次)」や「東京都保健医療計画」など、都の保健医療施策の参考資料となるものです。今回は、都民の保健医療に対する意識や要望を把握するヒントとして、調査の主な結果についてみていきます。

●飲酒や喫煙の状況や意識は

まず、自分の健康状態については、「よい(計)」が81%(「よい」28%、「まあよい」53%)でした。イライラやストレスの有無は、「感じる(計)」74%(「しばしば感じる」22%、「たまに感じる」51%)で、普段の睡眠時間は、「足りている(計)」64%(「十分足りている」26%、「ほぼ足りている」38%)となりました。

飲酒の習慣(※2)は、「ほとんど飲まない」42%、「毎日」17%、「月に1~3日」13%。喫煙の習慣(※3)については、「現在習慣的に喫煙している人」21%、「過去習慣的に喫煙していた人」23%、「喫煙しない人」56%でした。

また、飲食店やカラオケ店で「受動喫煙を防止する対策がとれているか」を尋ねたところ、レストラン・食堂が「どちらかといえばできている」が60%で、最多となりました。利用者が受動喫煙防止対策として飲食店等に望む対応は、「店内(屋内)は禁煙にする」が40%でトップ、続いて「喫煙室を設置して、客席では喫煙できないようにする」33%となりました。

「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」の認知度については、「知っていた」と「聞いたことがある」を合わせて50%でした。

●かかりつけ医療機関が「ある」は6割超

保健や医療に関する情報の入手方法については、「テ

レビ」が78%、「インターネット」と「SNS」が合わせて50%。普段からかかりつけている医療機関「かかりつけ医」が「ある」は66%で、かかりつけ医を選んだ理由は「自宅から近い」78%、「家族が利用している」21%、「医師や看護師が話しやすい」18%でした。

また、在宅療養等について「長期の療養が必要になった場合、自宅で療養を続けたいと思うか」を尋ねたところ、「そう思う」32%、「そう思わない」38%、「わからない」29%となりました。

自宅で療養を続けたいと答えた人(541人)に、自宅で療養が実現可能かを尋ねたところ、「可能だと思う」が27%、「難しいと思う」が55%でした。

●保健や医療に関する行政への要望は

関心のある保健医療問題について尋ねたところ、「脳卒中・心臓病・がん・糖尿病など生活習慣病」が43%でトップ。「認知症や寝たきりなどの高齢者のための医療や介護制度のあり方」が36%、「医療費の負担のあり方」が34%となりました。

保健医療対策に関しての行政への要望については、「夜間・休日診療や救急医療体制を整備」が51%で最多となり、「高齢者などが長期療養するための病院・介護施設を整備」が39%、「地域の中心となる病院を整備する」が37%と続きました。

なお、同調査のより詳しい内容については、東京都ホームページ(<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/03/07/01.html>)から、調査結果の概要および全文をご覧になれます。調査についてのお問い合わせは、生活文化局広報広聴部都民の声課(03-5388-3133)までお願いします。

(※1)調査期間：平成28年10月21日~11月6日、標本数：3,000標本、有効回収標本数(率)：1,680標本(56.0%) (※2)

(※3)飲酒と喫煙の習慣については、20歳以上を対象に調査

東京今昔物語470

海上流通の要、東京港の歴史

首都圏の輸出入を担う東京港。その前身となった江戸湊は、江戸の物資の流通拠点として近世海運史上重要な役割を果たしました。明治時代には、築港が隅田川口改良工事として始まり、水路をさらって出た土砂は月島や芝浦の埋め立て造成に使われたそうです。その後、大正14年に日の出、続いて芝浦、



竹芝の両ふ頭が完成。東京港は近代港として歩み始め、昭和16年5月20日に開港しました。昭和40年代に入ると世界的なコンテナ輸送革命の波が起こり、東京港はいち早くコンテナ化に対応。昭和42年、日本初のフルコンテナ船が品川ふ頭に入港し、東京港は国際貿易港として大きく飛躍しました。